



1月 給食だより



新年あけましておめでとうございます。今年もいろいろな食べ物を食べ、たくさんの“おいしい”を感じてほしいです。1月には、年始の伝統行事を始め、全国学校給食週間があります。学校給食では、日本の食文化や伝統的な食べ物を知ってもらえるように、豆・魚・海藻を使ったり、和食の献立を取り入れたりしています。日本の食文化を大切にしていきたいと思います。

正月の食文化 -お正月に食べる「おせち料理」の意味を知ろう！-

 <p>えび</p> <p>腰が曲がるまで健康で長生きできますように。</p>	 <p>紅白かまぼこ</p> <p>赤と白はおめでたい色。赤はめでたさ、白は清らかさ</p>	 <p>くりさん どん</p> <p>黄金の小判を表す</p> <p>お金が貯まりますように。</p>	 <p>田作り</p> <p>作物が豊かに実りますように。</p>
 <p>たにもち ごぼう</p> <p>家族がその地にしっかり根を張り、安泰に暮らせますように。</p>	 <p>黒豆</p> <p>一年中「まめ」に働き、「まめ」に暮らせますように。</p>	 <p>酢ぼす</p> <p>先の見通しがききますように。</p>	 <p>藪の子</p> <p>子孫に恵まれますように。</p>
 <p>こんぶ巻き</p> <p>「よろこぶ」と「こんぶ」をかけて「よろこんぶ」</p>	 <p>だて巻き</p> <p>しっかり勉強ができ、学問が実りますように。</p>	 <p>煮しめ</p> <p>家族が仲良く結ばれ、ずっと一緒にいられますように。</p>	 <p>紅白なます</p> <p>紅白のお祝いの水引きイメージ</p> <p>家族が平和でいられますように。</p>

1月24日から30日は 全国学校給食週間

給食の歴史を 紹介します!

学校給食の起源は、明治22（1889）年にさかのぼります。山形県の大督寺というお寺の中にあった小学校で、お弁当を持ってこられない子供たちに、昼食を無償で提供したことが始まりとされています。その後、全国へと広がりましたが、戦争による食料不足などの影響で中断されてしまいました。戦争が終わっても食料不足は続き、子供たちの栄養状態が心配されたことから、学校給食の再開を求める声が高まりました。



明治時代、山形県鶴岡市にある大督寺で給食が始まりました。



それは、お昼ごはんを持ってこられない子供たちのためのものでした。



鶴岡市には「給食発祥の地」と書かれた記念碑があります。



その後、戦争により、今まで行っていた給食ができなくなってしまいました。



全国の子供たちは、お腹を空かせてやせほそってしまいます。



すると、世界の国々から日本の子供たちを助けようと、脱脂粉乳、小麦粉、缶詰などが送られてきました。



そして戦後、給食が再び始まったのが12月24日！



12月24日は冬休みなので、1月24日を記念日とし、給食について考える週間としています。